

令和 7 年度鹿児島県原子力防災訓練の結果について

1 令和 7 年度県原子力防災訓練概要

(1) 実施日時

令和 8 年 2 月 7 日（土） 7 時 0 0 分～ 1 8 時 0 0 分

(2) 参加機関、参加者数

約 220 機関（年度間：約 230 機関）、約 4,000 人（年度間：約 6,100 人）

※ 「年度間」には、訓練当日（2 月 7 日）と別日で、令和 7 年度中に原子力防災訓練を行った学校等での実績を含む。

(3) 訓練の特徴

① 複合災害（地震）を想定した訓練

ア 能登半島地震で得られた教訓等を踏まえた新たな訓練

(7) 避難生活における良好な生活環境の確保に向けた避難所設営訓練

- ・ キッチンカーの派遣等による炊き出し訓練
- ・ 可搬型衛星通信設備の設置による通信環境の確保
- ・ トイレカー・水循環型シャワー等の設置

(イ) 道路閉塞に伴う孤立化等への対応

- ・ 孤立地区での屋内退避を想定したヘリによる物資供給訓練

(ウ) 要員が速やかに参集できない事態を想定した訓練

- ・ 発災直後に県要員が速やかに参集できない場合を想定した原子力災害対策本部及び現地災害対策本部の運営訓練

イ その他、従来から実施してきている訓練

- ・ 道路啓開
- ・ 自宅の家屋倒壊を想定した救助訓練
- ・ モニタリングポスト等が使用できない場合の可搬型モニタリングポストによる測定
- ・ 避難計画上の避難先へ避難できない事態を想定した代替の避難先への避難 等

② 若年層の参加促進に係る取組

- ・ 保育園の園児の避難において、保護者への引き渡しが無事終了していない事態を想定した、避難先施設での児童の引き渡し訓練
- ・ 小学生等を対象とした子ども向けの防災講習会

③ その他の拡充内容

(7) 避難退域検査等訓練

- ・ 未実施場所（候補地）での検証
（川床コミュニティ運動場：長島町）

(イ) 避難方法の理解度向上に向けた取組

- ・ 避難バス車内における、内閣府作成の動画を活用した避難方法等の説明や、県が令和6年度に作成したダウンロード方法の紹介用動画を活用した原子力防災アプリの周知

(ウ) 要素訓練

- ・ 訓練当日（2月7日）と別日で、県と薩摩川内市の要員が、情報連絡や被災状況等を取りまとめ、防護措置に係る国への情報提供等を行う訓練を実施

2 外部委託による評価等及び県の対応の方向性

<凡例>

○：県外部委託による評価 ●：訓練参加者からの意見

(1) 県及び市災害対策本部訓練

① 良好事例

内容
○鹿児島県災害対策本部（以下、「県本部」）においては、県本部と鹿児島県現地災害対策本部（以下、「県現地本部」）との間で原子力防災システム（NISS）を用いた情報連絡訓練を追加しており、例年に比べ（※）、同システムの活用の幅が広がっていることを確認した。 ※ 従前は、オフサイトセンター（以下、「OFC」）にコントローラーを配置していたが、より実効性を高めるため、OFCとの情報連絡訓練を追加した。
○県本部において、警戒事態から放射性物質放出までの対応の一連の流れが円滑に行われた。
○薩摩川内市災害対策本部（以下、「市本部」）運営訓練において、導入後4年目になる鹿児島県原子力災害時住民避難支援・円滑化システムを、本部長に対する訓練参加市民の状況説明に使用するなど、効果的に活用していた。

○市本部に各種機能が集約されており、本部長の判断に資するため、クロノロジー、避難状況の表示が電子ボード化され見やすい位置に配置されていた。

② 課題及びその対応の方向性

改善すべき課題	県の対応の方向性
●原子力災害対策指針の改正に伴い新たに盛り込まれた屋内退避の運用について、訓練に盛り込む必要がある。	・国や他県の訓練内容を踏まえ、本県訓練での実施を検討する。

(2) 県現地災害対策本部訓練

① 良好事例

内容
○オフサイトセンター（以下、「OFC」）参集・運営訓練においては、緊急時に要員が参集できない状況を想定した訓練について、初期参集者をはじめ各段階の参集者が、状況を理解して遅滞なく作業を実施し、現地本部立上げ等の初動活動の確立や初期の情報収集が概ねできていた。
○OFC参集・運営訓練においては、班長による参集者の経験を考慮した役割分担や、人数が少ない班での全員協力による臨機応変の対応など、過去の良い事例が活かされた場面が見られた。
○大型モニターによる主要活動ボード表示は、わかりやすく情報共有に有効だった。
○責任者が2名おり、各員がお互いに相談しながら活動の内容を把握し、チーム員への指摘も的確であった。

② 課題及びその対応の方向性

改善すべき課題	対応の方向性
○1日の訓練時間が長く、体力や集中力が終盤に下がる。また、会議の回数が多く、都度資料作成等の作業が寸断される。	・国の「原子力防災訓練ガイダンス」を踏まえ、全体の訓練内容を充実させる観点から、手順の確認を主たる目的とした会議などについて、想定開催としてスキップするなどの対応を検討する。

(3) 住民避難・避難退域時検査訓練

① 良好事例

内容
○住民避難関係の訓練では、一部の避難所設置訓練に参加した住民の全員が、原子力防災アプリをインストールしており、バス乗車、避難所受け入れ等の確認作業の円滑化等が図られている。 また、若年層の参加が増えるなど参加住民の年齢層が広がり、幅広い世代の防災意識向上や原子力防災に対する理解促進に資するものと考えられる。
○避難所受け入れや安定ヨウ素剤配布時等の本人確認等に、原子力防災アプリが活用されており、受付作業が円滑に進行されていた。 特に、安定ヨウ素剤の配布では、担当者が住民のQRコードを読み取ることで、問診記録等のデータベースが構築され、また本部への報告等もアプリで完結するなど、原子力防災アプリの有効性が確認された。
○通信環境を確保するための可搬型衛星通信設備の設置訓練や、良好な生活環境の確保を図るためのキッチンカーによる炊き出しの実施や水循環型手洗い器、トイレカーの設置訓練など避難所における良好な生活環境の確保を図る取組を参加者が体感することができた。
○一時移転バスの車中において、新たに内閣府作成の動画「！サクッと解説！原子力防災」が放映され、参加者の避難方法等への理解促進に貢献したものと考えられる。

② 課題及びその対応の方向性

改善すべき課題	対応の方向性
○住民避難訓練において、障がい者の模擬対応が確認できない事例があった。	・障がい者も安心して避難できるよう、住民避難訓練での障がい者の模擬対応の実施など、災害時要配慮者への対応策の充実等を検討する。
●避難退域時検査訓練において、車両検査エリアと住民検査エリアとの間で、避難車両の受け渡し円滑でないなど連携に課題があった。	・本訓練とは別日で、新たに車両検査と住民検査を連携した事前訓練など、両エリアの連携の円滑化に資する取組の実施を検討する。

●園児引き渡し訓練や甑島の住民避難訓練において、情報連絡が十分ではない場面があった。	・ 情報発信者からの連絡が遅れている場合は、受信者から確認をするような連絡体制や、担当者が対応できない場合を想定して１対１ではなく、複数が情報共有し対応できる体制の構築に向けて関係市町と調整する。
---	---

3 住民アンケート実施結果 別紙のとおり

令和 7 年度 鹿児島県原子力防災訓練

住民アンケート 実施結果

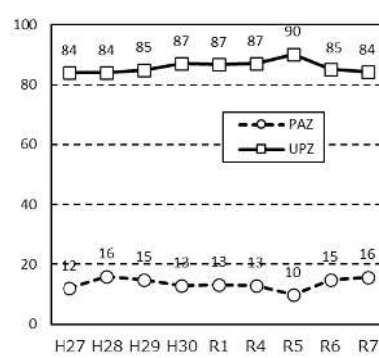
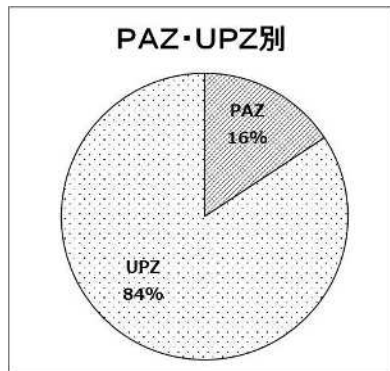
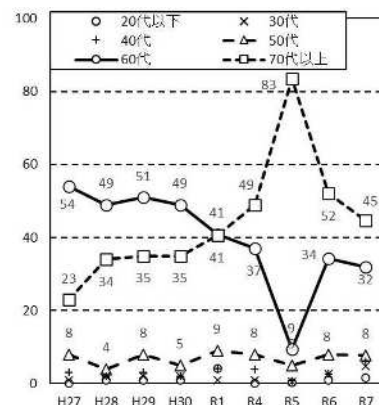
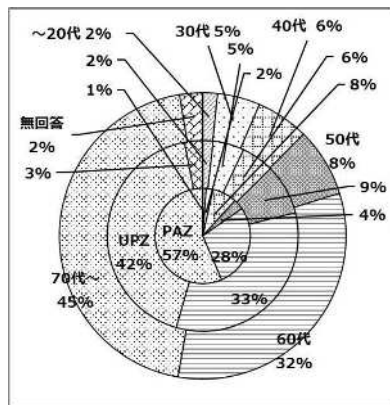
- 1 令和 7 年度鹿児島県原子力防災訓練の住民アンケート実施概要
 - ・実施日時：令和 8 年 2 月 7 日（土）
 - ・実施場所：避難所等（関係市町により配布及び回収）
 - ・対象者：薩摩川内市，いちき串木野市，阿久根市，鹿児島市，出水市，日置市，さつま町，長島町の訓練参加住民

・回答人数：540名

薩摩川内市	209 名	いちき串木野市	92 名	阿久根市	44 名
鹿児島市	41 名	出水市	68 名	日置市	30 名
さつま町	23 名	長島町	33 名		

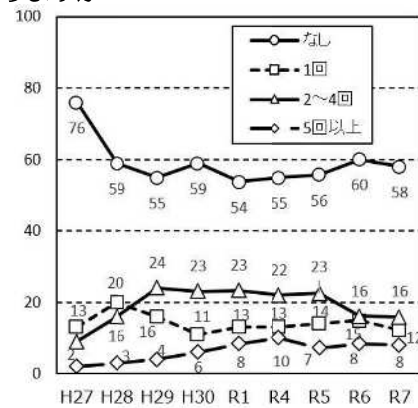
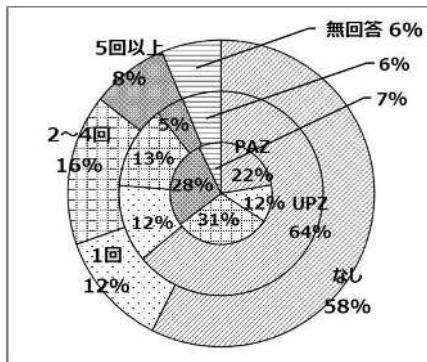
- 2 アンケートの目的
原子力防災訓練に参加した住民の意見を把握し，この結果を分析の上，訓練の充実に役立てることを目的として実施した。

年齢層, PAZ・UPZの別

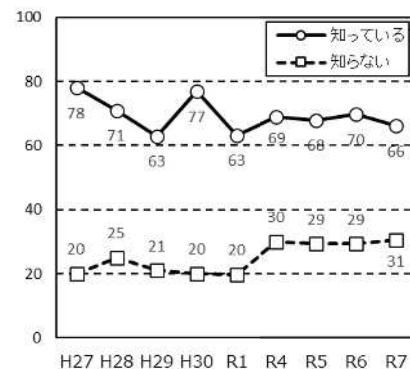
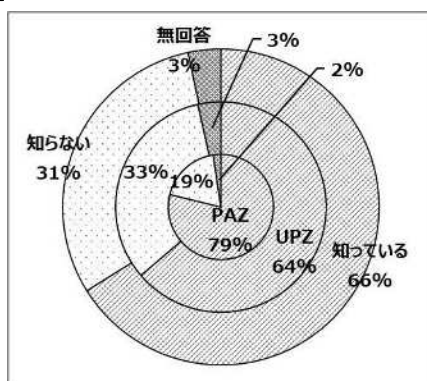


2

Q1 これまでに原子力防災訓練に参加したことがありますか

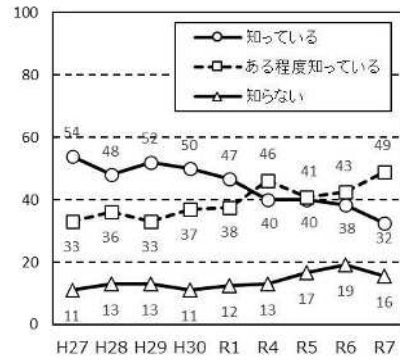
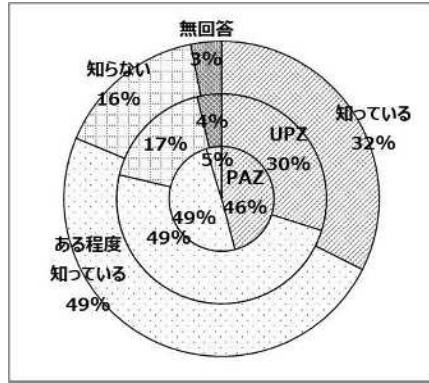


Q2 お住まいの市町の避難計画を知っていますか

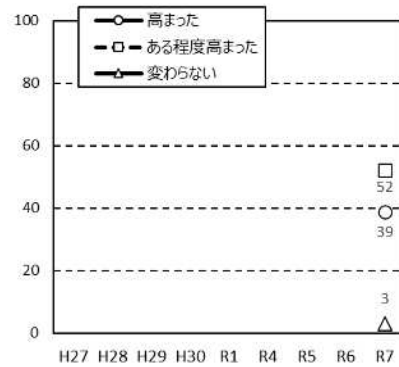
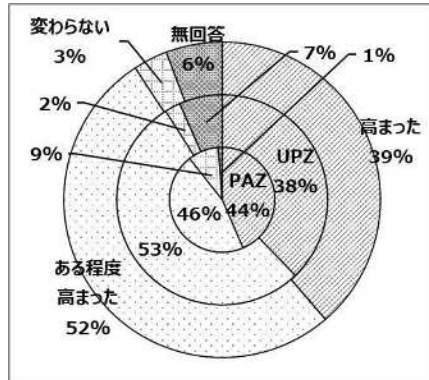


3

Q3-1 原子力災害時の避難方法を知っていますか

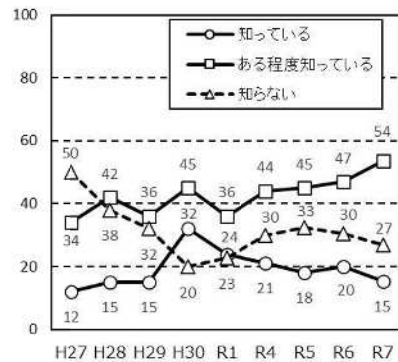
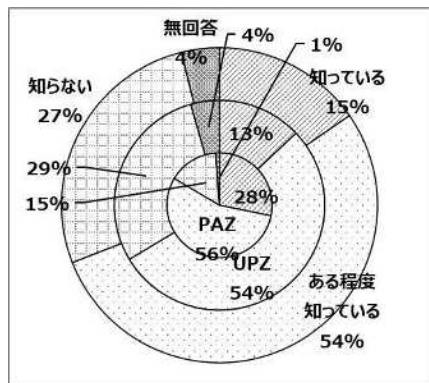


Q3-2 原子力災害時の避難方法について理解が高まりましたか

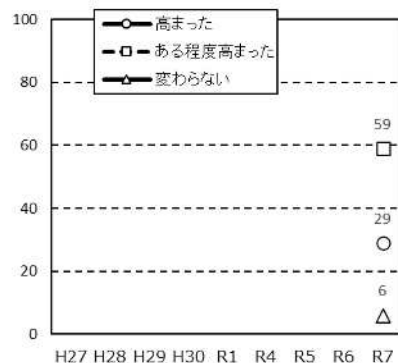
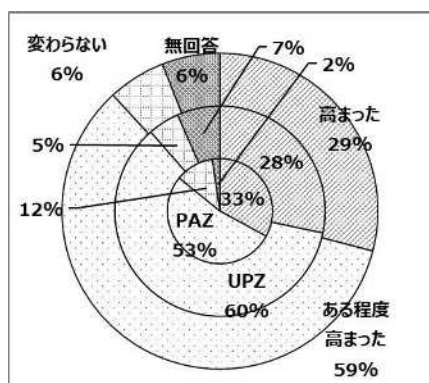


4

Q4-1 お住まいの市町では、いつどのような防護措置を行うか知っていますか

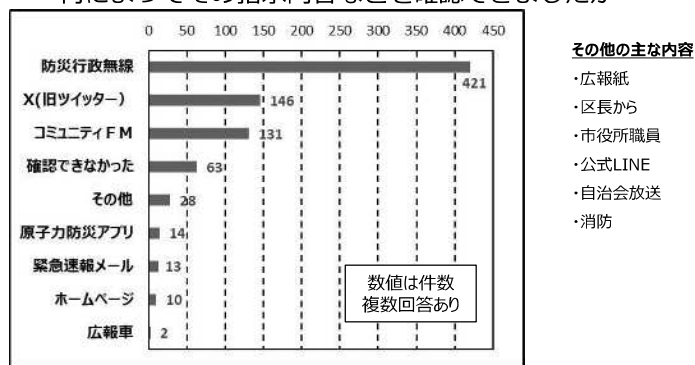


Q4-2 お住まいの市町の防護措置について理解が高まりましたか

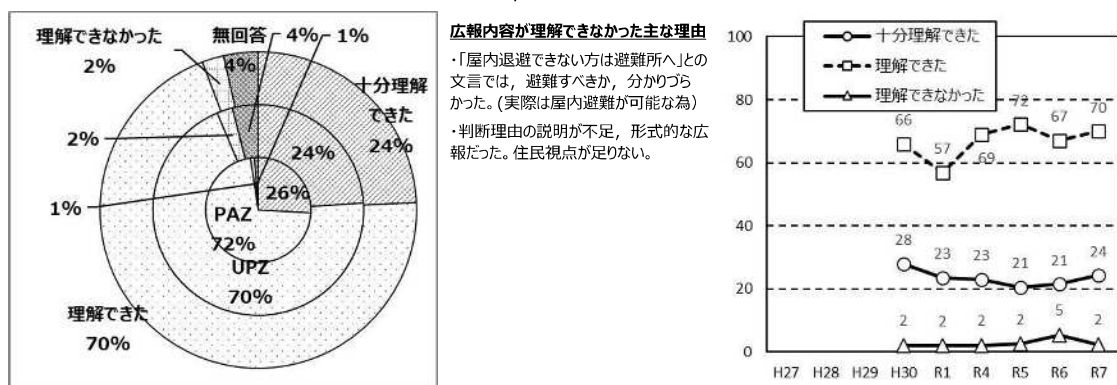


5

Q5-1 住民の方々へ室内退避や避難の指示などを伝える広報訓練を行いました、
何によってその指示内容などを確認できましたか

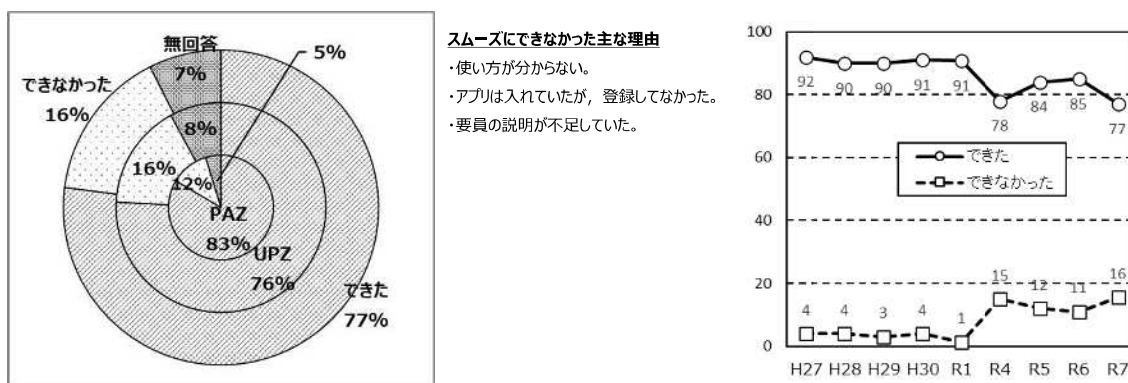


Q5-2 広報の内容（屋内退避や避難の指示など）は、理解できましたか

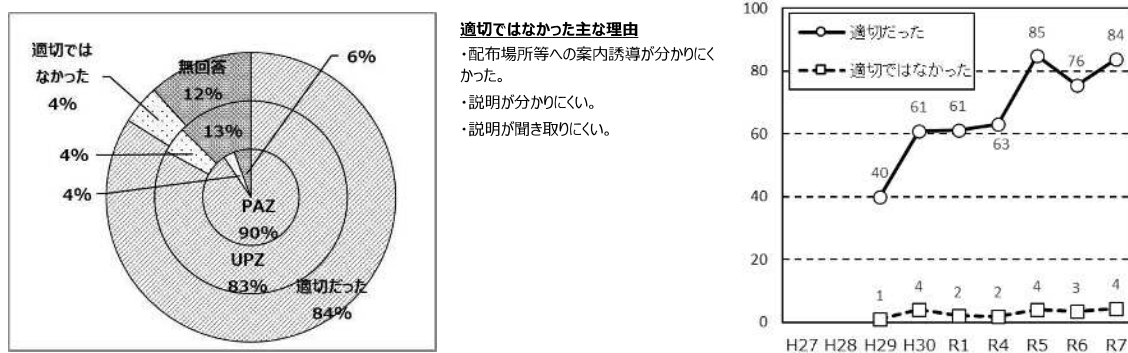


6

Q6 原子力防災アプリや紙のQRコードを使用した避難所等の受付はスムーズにできましたか



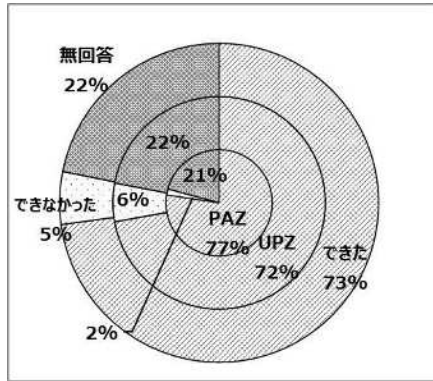
Q7-1 安定ヨウ素剤の緊急配布は適切でしたか ※訓練に参加していない方は除く



7

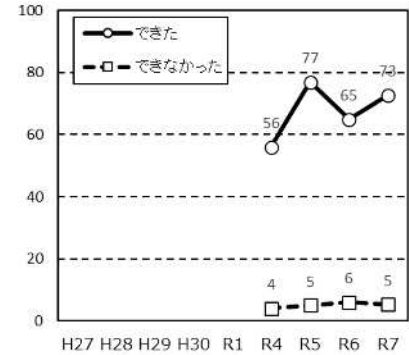
Q8 原子力防災アプリや紙のQRコードを使用した安定ヨウ素剤緊急配布はスムーズにできましたか

※訓練に参加していない方は除く

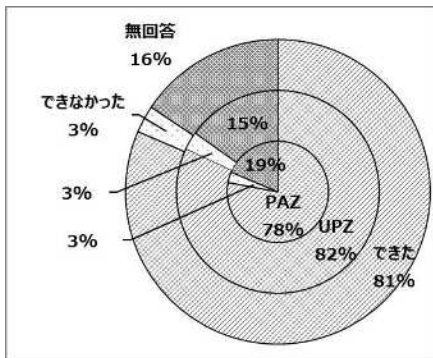


スムーズにできなかった主な理由

- ・説明が分かりづらく、自分でできなかった。
- ・担当者が一人で時間がかった。

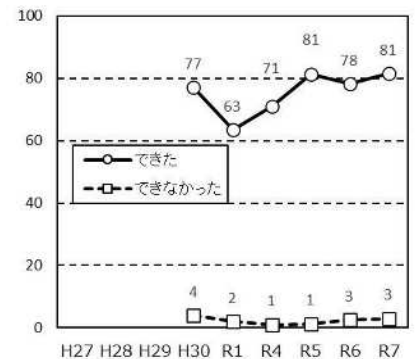


Q9-1 自宅又は避難所などでの屋内退避はできましたか ※訓練に参加していない方は除く

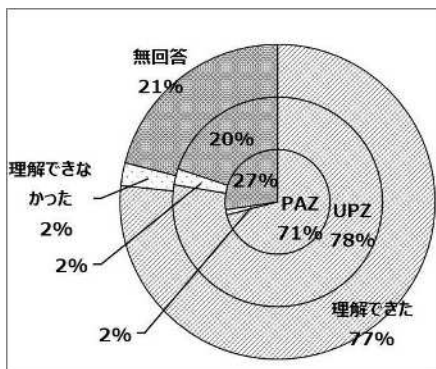


できなかった主な理由

- ・屋内退避の開始指示が伝わらなかった。
- ・屋内退避で窓閉め等の必要性を知らなかった。

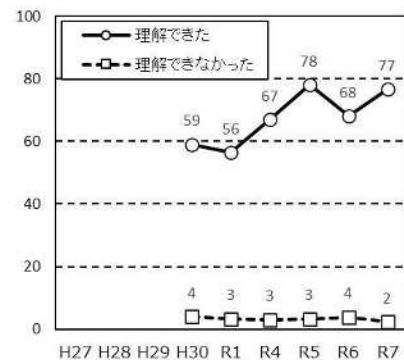


Q10-1 避難退域時検査場所での検査の流れは理解できましたか ※訓練に参加していない方は除く

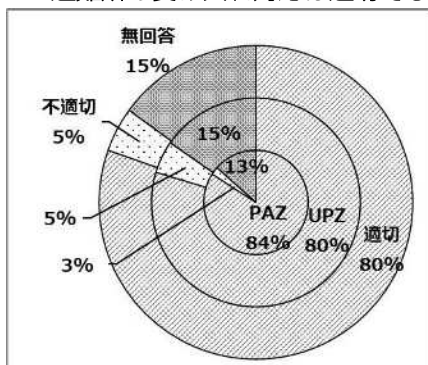


理解できなかった主な理由

- ・検査場所での説明等が分かりにくい、聞き取りにくい。

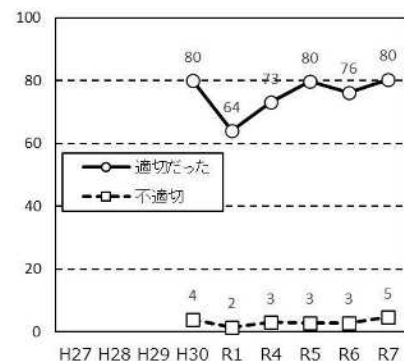


Q11-1 避難所の受け入れ対応は適切でしたか ※訓練に参加していない方は除く

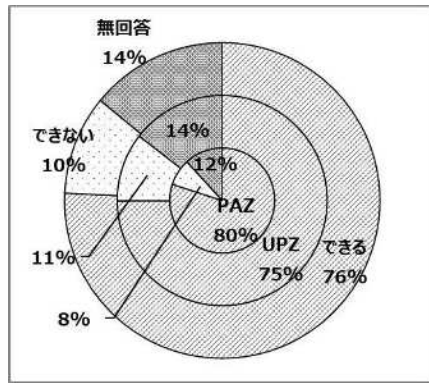


不適切の主な理由

- ・避難所到着後の案内誘導がなかった、分かりにくかった。
- ・受付方法の説明がなかった、分かりにくかった。
- ・避難所施設の説明がなかった、分かりにくかった。

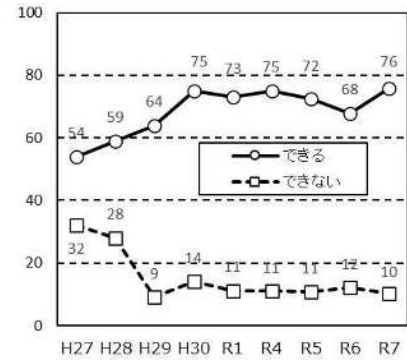


Q12 今回の訓練を体験して避難できると感じましたか



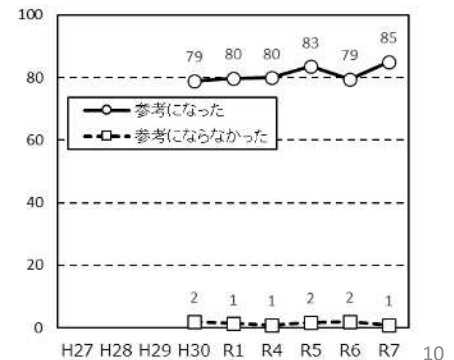
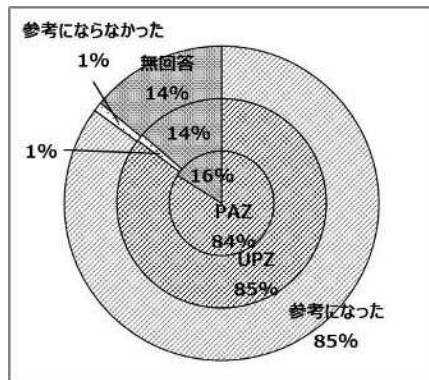
できないと回答した主な理由

- ・その時にならないと分からないが訓練どおりに行くか不安。
- ・実際発生時の道路避難経路の混雑が想定できない。
- ・市民に十分浸透していない、危機感(実感)がない。
- ・介護をしている為動けない人をどうしたら良いか？自分ひとりでは避難出来ない。



Q13 防災講習会は参考になりましたか

※講習会に参加していない方は除く



参加住民アンケート集計結果概要

- 区域別の割合は、PAZが16%、UPZが84%である。
- 年齢別では、60代以上が77%を占めた。一方で、40代以下の参加者は、令和6年度の6%から13%へと増加しており、若年層の参加拡大が進んでいることが確認された。
- 原子力災害時の避難方法を知っている・ある程度知っている方の割合は、令和6年度と同様の81%であるが、知っているの割合は、38%から32%へと減少していることから、引き続き原子力災害時の避難方法について周知・広報が必要であることが考えられる。
- どのような防護措置を行うかを知っている・ある程度知っている方の割合は69%で、令和6年度の67%から僅かに上昇している。平成27年度以降は46%～77%で推移しているが、直近3年間は上昇傾向であること及び知らない方の割合が減少傾向であることから、防護措置に関する理解が少しずつ深まっていると考えられる。
- 今回の訓練を体験して避難できると感じた方の割合は76%で、令和6年度の68%から上昇しており、今年度は過去最高の割合となっている。

1 訓練想定、内容など

- ・現実味やリスクへのリアリティが薄い。その辺を伝え自分事として考えさせる 広報が必要ではないかと思う。
- ・住民に、緊急時に開設される避難所の情報や、避難のタイミングなど、安心できる正しい情報共有が必要だと感じた。また、市職員や消防団の方々がUPZ内で活動する範囲や限界も決めて情報共有すべきと思いました。
- ・もう少し若い人達に参加できるようにした方が良いと思いました。
- ・訓練に参加したことで避難先や移動方法等知ることが出来た。外での食事が寒かったので屋内も検討してほしい。
- ・避難訓練の参加者が少なすぎます。広報に工夫が必要では、原発事故に関する認識が薄いのでは。
- ・30km外の住民の方にも周知・広報してもらいたい。

2 避難

- ・バスの待機場所での駐車を、号数順に受け付けた方が良い。自分の乗車号数か、分かりづらい。
- ・避難住民の受入れに時間がかかりすぎ。

3 原子力防災アプリ

- ・アプリやQRコードの使い方を教えてほしい。
- ・視覚障がい者の使用に留意してほしい。

4 避難所等

- ・展示品は実際に見たり触ったりできてとても参考になりました。非常食は少し食べてみたいと思いました。
- ・実戦さながらの対応だった。当たり前のことではあるが関心した。良い訓練だったと思います。
- ・トイレを設置して欲しい。